

## 基礎経済科学研究所

### 大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第899回ゼミ報告] 2025年4月4日号

まだまだ続く、トランプ劇場。関税で脅しを、ディールかと思いきや、相互関税は即実施と。各国株市場は下落、多国籍企業はどう対応するのか。3月26日ゼミは、『マルクス資本論第3巻』著者佐々木隆治さんと語る会を行いました。佐々木隆治さんから、『資本論第3部』執筆の経緯では、2009年に『資本論』草稿の研究から博士論文執筆へ、2018年には『マルクス 資本論』を出版し予想以上に読まれた。それ以降『資本論』第3巻(第3部)草稿の研究を本格化し、2024年に『マルクス資本論第3巻』を刊行した。その特徴は、第3部をエンゲルス版でなく、マルクスの草稿によるが、未完のため記述をより整合して記載した。第3部全体を「形象化」論と「マルクス均衡」概念を使い、価値と生産価格の関係を整理し、転形問題に対処した。第3部の意義は、資本蓄積の停滞と新自由主義と資本主義の金融化、レントすなわち労働によって生産できないものを独占による収益、そこにデジタルプラットフォーム、アルゴリズムによる富の収奪体制、これに対するエコロジー・生活インフラ等の「コモン」を巡る闘争の重要性、ここに第3部を読み解くカギがある。参加者からの質問と回答では、「マルクス均衡」とは労働に対して経済価値が必要で、転形問題は存在しない。価値方程式に拘り続けると意味ある分析はできない。本源的蓄積は、歴史の話ではなく、マルクスは本源的蓄積とは別に資本主義の歴史を書こうとしていた。利子とレントについては、利子はレントではない、高利貸が利子生み資本と違うように、封建地代も資本主義のレントとは異なる。レント資本主義が資本主義の最終の発展形態であり、産業・商業・金融・レント以外に資本の収益の獲得方法がないからである。資本論は「一国経済論」かどうか、世界市場が捨象されているが、世界市場の中で各国ごとに編成され結合しているのが資本主義的生産様式である、等々の回答をいただいた。会場参加は松村さん、川口さん・山口さん・竹内さん、高田、オンライン参加はゲストの佐々木隆治さん・後藤さん・田中さん・井貝さんの合計9名の参加でした。

\* 4月9日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 841 2003 0239 パスコード: 894153

\*訂正: 前号の「チュルギー」は「18世紀の人」に訂正します

\*第4週ゼミの次のテキスト推薦本を募ります。ご提案ください。

#### \*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

4月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
グレーバー『万物の黎明』3章 氷河期を解凍する 報告: 高田

4月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
※テキスト未定: 報告者未定

5月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
グレーバー『万物の黎明』4章 自由民・諸文化・私的所有 報告者未定  
その後 5/28, 6/11, 6/25, 7/9, 7/23

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755  
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso